

堀岡 敏喜 議員 公明党



問 ケアラー支援の拡充を

答 広く共有連携し支援体制を整備

家族などの介護や看護に

追われ、ケアラー（介護者）

自身が体調を崩したり、社

会から孤立したりすることが

大きな課題となっている。

問 支援する制度や仕組み

が必要と考えるが市の認識

は。

答（健康福祉部長） 今後、

地域や関係機関の連携による

包括的な支援が行えるよう、

体制を充実し、整備していく

必要がある。

問 策定中の第8期介護保

険事業計画にケアラー支援

を施策項目として掲げ、推

進すべきでは。

答 ケア会議で情報共有し

ながら検討。支援事業は第

8期計画の策定委員会で提

案し、意見を聞く。

問 ケアラー支援条例の制

定に向けて検討を。

答 条例制定は必要だと感

じる。専門職の意見を聞き

研究する。



▲ケアラー手帳

問

ヤングケアラーの
把握と支援を

答

協議会等で
多職種連携を図る

なかった。

要支援家庭の約80件の中

には、疑わしきケースが1

件あった。関係機関・関係

部署と情報共有し、適時必

要な支援をしている。

問 ケアラーが抱える諸問

題、諸課題は複雑多岐にわ

たり、その解決に行政は縦

割りを排し、また民間、地

域での連携が不可欠である。

ケアラー支援の認識と対応

は。

答（市長）子どもの権利

を守るという視点で、多層

的に支援することが重要。

要保護児童対策地域協議

会や、地域ケア会議で多職

種の連携を図っていく。



▲家族介護者支援マニュアル

問 弥富市版ケアラー手帳

を作成し、配布しては。

答 しっかりと勉強や研修

を積んだ後、ケアラーの把

握に努め、ケアラー手帳の

普及を行っていききたい。

問 「家族介護者支援マニ

ュアル」を冊子として関係す

る部署の職員に配布しては。

答 関係部署で研修を行

い、情報共有できる仕組み

や機会を作り、基礎固めの

後に配布したい。

病気や障がいのある家族

の介護を担いながら、学校

に通っている18歳未満の「ヤ

ングケアラー」について

厚生労働省が今年度中に

も、初の全国的な実態調査

を始める。

問 市の現状の認識は。

答（健康福祉部長）令和2

年6月に在宅介護実態調査

を500人対象で行い、30

歳未満の介護者の該当者は